



# 「PaperLab(ペーパーラボ)」による古紙再生を障がい者の働きがいに！ 「より、そう、ちからを。」を大切に、ダイバーシティ実現に奮闘



東北電力株式会社  
ビジネスサポート本部人財部長 荻野 隆司 氏

東北電力フレンドリー・パートナーズ株式会社  
常務取締役オフィスサポート事業部長 山田 全史 氏  
社員 長屋 拡夢 氏  
社員 小形 仁翔 氏

東北6県と新潟県を対象エリアとする東北電力グループは、2021年10月に「東北電力サステナビリティ方針」を制定するなど、社会貢献活動にも力を入れている。地域密着の姿勢は、経営理念である「地域社会との共栄」と、グループスローガン『より、そう、ちから。』に表れている。近年進めているのが、東北電力の特例子会社「東北電力フレンドリー・パートナーズ」と一体となって取り組んでいる障がい者雇用だ。その仕事の中心にあるのが、エプソンの乾式オフィス製紙機「PaperLab(ペーパーラボ)」。導入の経緯や、活用方法などについて話を伺った。

## 地域社会においても 多様性の実現が重要

—まずは、御社の経営理念『地域社会との共栄』と、グループスローガン『より、そう、ちから。』に込められた思いを教えてください。

**荻野氏** 私どもはお客さまに電気を供給するのが仕事であり、使命でもあります。特に発電所の立地をはじめ、地域の



荻野氏

方々にご理解をいただかないと、業務はままなりません。それと同時に、私どもも地域に対して恩返しをするために地域貢献をしっかりとやっていこうという思いで掲げています。また、当社は創業以来、「東北の発展なくして当社の発展なし」ということを社是としていますので、全社員そうした気持ちをしっかりと心の中に植え込んで、活動しているところです。

—地域に“寄り添う”活動としては、具体的にどのようなものがありますか。

**荻野氏** 草の根的なものとしては、地域の清掃活動や高齢者世帯の訪問活動などですね。その他、東北6県および新潟県の中学生を対象とした「中学生作文コンクール」など、地域の方々に直接喜んでいただけるような活動を行っております。

—ペーパーラボ導入の理由を教えてください。

**荻野氏** 近年、ダイバーシティ&インクルージョンという言葉で説明される「多様性のある社会」の実現は、地域社会においても重要性を増しています。その一環として、障がいを

持つ方々に夢のある、働きがいのある仕事を提供できないかと考え、2018年に、東北電力フレンドリー・パートナーズという会社を設立しました。その会社で、障がいを持ちながらも意欲的に働きたいという方に仕事をさせていただくようになり、その一環でペーパーラボを導入することになったのです。

—具体的にはどのような経緯でペーパーラボを知ったのですか。

**山田氏** 当社の仕事の発注元は、東北電力と東北電力ネットワークの2社になります。どちらも同じビルに入っていますので、そこでの事務作業のサポートを主に請け負っています。当社としては、業務の拡大を通じて、今後も積極的に障がい者を雇用してまいりたいと考えておりました。そんな時、東北電力から「こういうのがあるよ」と、ペーパーラボを教えられたのです。



山田氏

**荻野氏** 私どもとしましても、紙を使う仕事が多いため、これをなんとか有効活用できないかという問題意識は、以前より持っておりました。そんな折、エプソン販売さんからご案内をいただきまして、東北電力フレンドリー・パートナーズに相談したのです。

**山田氏** もし、ペーパーラボで古紙を再生し、それで名刺を作ったりできれば、いろいろな可能性があるなど。実際に



使っている様子を見学させてもらった上で、ぜひお願いすると、東北電力にお願いした次第です。

## 社員の可能性や才能を発見できた

—ペーパーラボを使ってどんな仕事をしているのですか？

**山田氏** 具体的には、紙の書類を取り込んでPDFのデータに変換する作業、大きな会議や講演会の会場設営、各オフィスの廃棄書類の回収、回収した紙をペーパーラボで再生して名刺やノベルティグッズを作る、というようなことを、現在30名の一般職<sup>(注)</sup>が行っております。

(注)同社における障がいを持つ社員の呼称

—古紙回収からペーパーラボを使った再生紙づくり、名刺・ノベルティグッズ作成まで、一般職の方が行っているのでしょうか。

**山田氏** はい。全て行っています。まず、各フロアを回って、使用済み書類を集めてきます。その中から、ペーパーラボで再生するもの、シュレッダーにかけられるものに分別します。両面コピーやカラーコピーをした紙を混ぜると、再生した時の品質にばらつきが出てしまうからです。回収する紙の量は段ボールにして1カ月約80箱。そのうち半分の40箱弱をペーパーラボで再生しています。ペーパーラボの操作も、もちろん一般職が行っています。最初は操作できるだろうかと心配でしたが、いざやらせてみると全く問題ありませんし、不安がっていた社員も同僚や先輩たちがやっている姿を見て、じゃあ自分もやってみよう、積極的に取り組んでいます。

—ペーパーラボを導入して、大きく変わったことはありますか。

**山田氏** まず、単純に仕事の幅が広がりました。集めてきた書類は、以前はシュレッダーにかけただけでしたが、ペー

パーラボを導入してからは、再生してコピー用紙にしたり、名刺を作ったり、ノベルティのカレンダーやメモ帳を作ったりと、まさに大忙しです。

#### — 思わぬ成果はありましたか？

**山田氏** ノベルティの絵も社員が描いているのですが、そうした隠れた才能や得意分野が見つかったのは想定外でしたね。そして、もう一つは「やりがい」ですね。名刺やノベルティをお客様にお配りして、評判が良かったという声をいただくことで、「また頑張ろう」という、好循環が生まれています。



**荻野氏** われわれ東北電力の社員にも好影響を与えていると思います。東北電力フレンドリー・パートナーズの皆さんが、書類を回収しに来たり、PDF化した書類を持って来たりする度に、「こんにちは、東北電力フレンドリー・パートナーズです！」と明るく挨拶してくれるので、「元気になる」とか「勇気づけられる」といった声を社員たちからよく聞きます。

### コスト以上に、目に見えない大きなメリットがある

#### — 社外的にはどうでしょうか？

**荻野氏** 名刺やノベルティを地域の方々に配る際に「これは古紙を再生して作ったもの」と説明すると、お客様も関心を持って聞いてくださり、「非常に喜んでくださいます」という報告も、しょっちゅう上がってきています。

— 聞くところによると、東北電力向けのノベルティのカレンダーは毎年5000部も作っているとか。デザインなども社内では決めているのですか。

**山田氏** 毎年テーマは東北電力からもらっていますが、例えば「東北地方の名産品」というテーマだったら、どんな名産品を描こうとか、どの月にどの名産品の絵を持ってこようかということは、私たちから提案させてもらっています。

#### — けっこう時間もかかるのではないですか？

**山田氏** 絵の作成などの下準備は春にはもう取り掛かり始め、夏ぐらいから本格的な制作を始めます。ちなみに、東北電力に納める以外に、当社オリジナルのカレンダーも作成し

当社の社員が在籍していた支援学校や、支援を受けている機関、そして社員の家庭などにも配っており、そちらからも大変好評を頂いております。



#### — ペーパーラボを通して、障がい者雇用の課題も見えてきたのではないですか？

**山田氏** そうですね。実は私は今の会社に来て1年なのですが、日々学びというか、一般職の方々の一生懸命働く姿には本当に刺激を受けています。そこで感じたのは、できないことややれないことではなく、やれることに焦点を当てることの大事さです。さきほども申し上げましたが、字を書いたり読んだり得意じゃないけれど、絵を描くのは上手だとか、同じ作業を飽きずにコツコツとできるということも、実は強みなんですよね。マイナスではなくてプラスのところを積極的に見つけてあげる、そして成果を実感できる工夫をしてあげることも大事です。最近の仕事はデジタル中心ですが、成果が分かりにくいところがあります。しかし紙は実際に手に取ることができるので、成果物として非常に分かりやすい。そうした視点を大事にすれば、もっと障がい者が出来る仕事の幅は広がると思います。

#### — ペーパーラボを使っていて、困ったことやこうして欲しいということはありませんか？

**山田氏** たまに紙が詰まるといったエラーもあるのですが、遠隔で常にモニターしてくれているので、何かあると私達が気づく前に「こういうエラーが出ていますよ」と連絡してくれます。私達だけで対応できない場合は、すぐにメンテナンススタッフさんが来れるので、非常に安心感がありますね。ですから特に要望はありません。よいしょするわけではありませんが(笑)

#### — ほかの会社にお勧めできる場所があるとしたらどこでしょう？

**荻野氏** 会社としては、どうしても会計的な面を見がちなのですが、「お金に換算できないメリット」もたくさんあることに気づきました。そこをしっかりと意識して、会社として「十分元は取れている」と思えるかどうか、大事だと思いました。実際東北ではまだ導入しているところは少ないようですが、お金以上の効果がありますよということは申し上げたいですね。もしお問い合わせいただければ喜んでお話しいたしますし、ご見学されたいということでしたら、いつでもご案内いたします。

— それは有り難いお言葉です。では、最後にペーパーラボを使った社会課題解決に関する今後の取り組みについて教えてください。

**山田氏** 最近では資料を入れるフォルダや、会社案内などもペーパーラボの再生紙で作っていますが、もっとネタが欲しいという状況なので、今後は、他の東北電力グループ会社や、地域に寄り添うという観点から地元の学校や自治体などとも何かご一緒できればと考えています。

**荻野氏** ペーパーラボを所有しているのは弊社ですが、運営は全て東北電力フレンドリー・パートナーズさんに任せています。せっかく、社外からも良い反響を頂いているので、東北電力グループ内にとどまらず、どんどん幅を広げて、巣立って行って欲しいですね。それが一番いい展開だと思いますし、我々もアイデア出しを含め、積極的にサポートして行こうと思います。

#### — わかりました。本日はどうもありがとうございました。

**荻野氏・山田氏** ありがとうございました。

### 仕事を通じてコミュニケーションがうまく取れるようになった

#### — 一般職の方へのインタビュー



左:長屋 拓夢氏 右:小形 仁翔氏

#### — 普段ペーパーラボを使ってどんな仕事をされていますか？

**長屋氏** 2人とも機械の操作と、ノベルティのカレンダーを主に作らせていただいています。

#### — ペーパーラボの操作は難しくありませんか？

**長屋氏** 最初の頃は難しいと感じましたが、ずっとやっているうちに慣れて、今ではスムーズにできています。

— 使わなくなった紙を新しい紙にすることについてはどう思いますか。

**長屋氏** 新しく使い道ができるのはすごいなと思います。ノベルティとかカレンダーとか、実際に形になるのがすごいです。

**小形氏** 会社の仕事で使ったものをまた新しく使えるようにできるっていうのはすごいなと思いましたし、それをどういう風にするのかを知れてよかったです。

#### — このお仕事をされていて周りの方から何か言われたりしますか？



**長屋氏** カレンダーを納めている会社の方から、カレンダーの出来栄が良かったという声はよく頂いています。とても嬉しいです。

**小形氏** 再生した紙やカレンダーを頂いて家に持って帰り、親やきょうだいから「この絵すごいね」とか「これ再生紙？」とか「自分たちで作ったの？」とか言われると、そういう仕事ができる良かったなって思います。

#### — 仕事は楽しいですか？

**小形氏** 仕分け作業が毎日続くと、楽しいなっていう気持ちが薄くなってしまいがちですが、次の日に紙の回収やシュレッダーといった体力を使う仕事をすると、気持ちがリフレッシュして、また楽しさが出てきます。

**長屋氏** 大変なときもありますが、仕事を覚えていくうちに楽しいと感じます。

#### 製品導入に関するお問い合わせ

PaperLabのホームページ

[epson.jp/paperlab/](https://epson.jp/paperlab/)

PaperLabインフォメーションセンター

050-3155-8990 平日9:00~17:30  
祝日・当社指定休日を除く

エプソン販売株式会社